



九州大学初・箱崎の近代建築物群が国の登録有形文化財に ～地域に開かれた新たな学びの拠点へ～

九州大学旧箱崎キャンパス（現箱崎サテライト）で長く親しまれた近代建築物群が、「造形の規範となっているもの」として、国の登録有形文化財（建造物）に登録される見通しとなりました。福岡市内でも最大級の現存する近代建築物であるとともに、九州大学の所有する建造物では初めての登録有形文化財^{※1}となります。

登録対象の建造物は、鉄骨鉄筋コンクリート造の初期の例であり、大学のシンボルにふさわしい外観の「旧九州帝国大学工学部本館」、煉瓦造の赤い壁が美しい「旧九州帝国大学本部事務室棟」、本部事務室棟の兄弟建築である「旧九州帝国大学本部建築課棟」、大正3年に完成し、のちに曳家された「旧九州帝国大学門衛所」です^{※2}。

九州大学ではこれらの近代建築物群が立地するゾーンを「箱崎サテライト」と名付け、学内外に開かれた新たな学びの拠点として活用していくこととしています。

今回の発表も踏まえ、箱崎サテライトをより魅力ある場所としていけるよう、ふさわしい活用方法を検討してまいりますので、皆様には一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

※1 登録有形文化財（建造物）…50年を経過した歴史的建造物のうち一定の評価を得たものが登録され、保存を図りつつ、積極的に利活用することで、建物の魅力を広く知ってもらう目的をもつもの。

※2 「 」内は文化財登録名称を示す。



旧九州帝国大学工学部本館



旧九州帝国大学本部事務室棟



旧九州帝国大学本部建築課棟



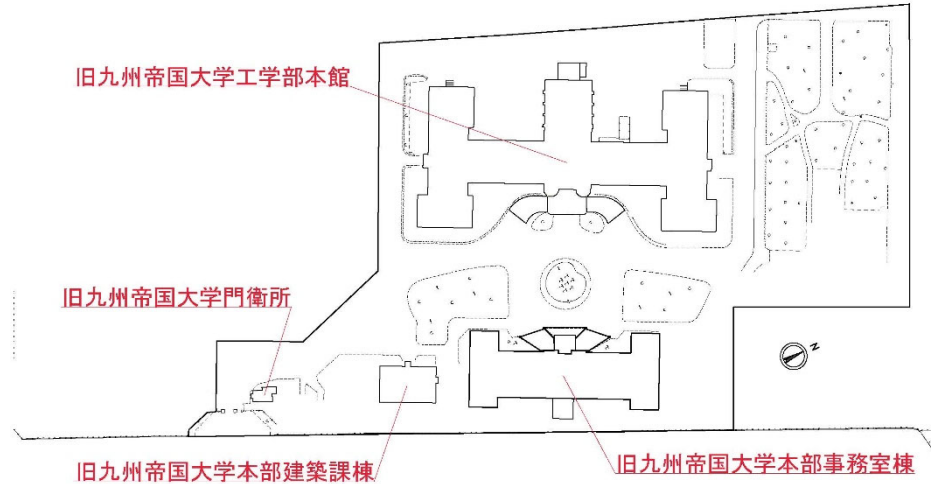
旧九州帝国大学門衛所

「近代建築物の保存活用プロジェクト～箱崎サテライト旧工学部本館改修支援事業～」のご案内
箱崎サテライトを学内外のより多くの皆様に快適かつ安全にご活用いただけるよう、九州大学ではこれらの建物について整備を計画しており、まずは工学部本館から改修することといたしました。皆様にはどうぞご支援を賜りますようお願い申し上げます。詳細は[九州大学基金HP](#)をご覧ください。

【お問い合わせ】九州大学施設部施設企画課
TEL:092-802-2082 FAX:092-802-2048
Mail: sskkeika2@jimu.kyushu-u.ac.jp

箱崎サテライト 近代建築物一覧

(令和5年3月 登録有形文化財登録見込み)



旧九州帝国大学本部事務室棟
(九州大学本部第一庁舎)

建設：1925年（大正14年）
規模：地上2階
構造：煉瓦
設計：倉田 謙
施工：佐伯工務所（現 佐伯建設）



大正12年に焼失した旧工科大学本館の煉瓦や礎石を転用して旧観を復すように再建された。煉瓦造の要式性・装飾性をよくとどめており、煉瓦造最後期の建築物として価値が高い。玄関上部のアーチ、階により異なる形態の窓など変化のある意匠が特徴的。歴史的経過が分かりやすく銘板に記される。工学部本館と対をなす配置の建物である。

受賞歴：福岡市都市景観賞



旧九州帝国大学工学部本館
(九州大学 旧工学部本館)

建設：1930年（昭和5年）
規模：地上3階 地下1階 塔屋付
構造：鉄筋コンクリート
一部鉄骨鉄筋コンクリート
設計：倉田 謙、小原 節三
施工：清水組（現 清水建設）



初期の鉄骨鉄筋コンクリート造の建物として全国的にも貴重。九州大学の代表的建築物であり、工学部設立のシンボルでもある。諸室の中でも大空間をなす大講義室は圧巻。正面玄関などを中心に質の高い意匠が施され、技術力の高さが窺えるタイルなど見所が多い。内部の装飾や家具、照明なども華を添える。箱崎キャンパスの顔として重要な役割を担う。

受賞歴：福岡市都市景観賞、近代化産業遺産群 続33の選定



旧九州帝国大学門衛所
(九州大学正門門衛所)

建設：1914年（大正3年）
規模：地上1階
構造：煉瓦
設計：倉田 謙
施工：鴻池組

箱崎サテライト最古の建造物であり、歴史的意匠が高密度に残されている。



旧九州帝国大学本部建築課棟
(九州大学本部第三庁舎)

建設：1925年（大正14年）
規模：地上2階 地下1階
構造：煉瓦
設計：倉田 謙
施工：佐伯工務所（現 佐伯建設）

本部事務室棟に併設された建造物で、大正12年に焼失した旧工科大学本館の煉瓦等が再利用されている。

※建物名の（ ）内は建物の通称名を示す